

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32202102	
事務事業名	スポーツ大会開催助成事業	
予算書の事業名	7.市民スポーツ奨励事業	
事業期間	開始年度	平成16年度以前
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
実施方法	4. 負担金・補助金	
	○ 1. 指定管理者代行 ○ 2. アウトソーシング ● 3. 負担金・補助金 ○ 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	08030300
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	スポーツ係	
記入者氏名	片山伸二	
電話番号	0765-23-1046	

政策体系上の位置付け	コード2	322021
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第2節 地域に根ざした文化とスポーツの振興	
施策名	2. 生涯スポーツ社会の推進	
区分	競技スポーツの推進	
基本事業名	イベントスポーツの推進	

予算科目	コード3	001100601
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	6. 保健体育費	
目	1. 保健体育総務費	

◆事業概要 (どのような事業か) 市内外からの選手、チームが参加、招聘し、開催する全国規模的なスポーツ大会に対して補助することで、市民アスリートの競技力等の資質の向上を図ることと、市民に活力を与えることを目的とする。		単位	実績		計画				
			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 市民スポーツ団体 (魚津市体育協会加盟団体)	対象指標	① 市の人口	人	46,036	45,562	45,000	45,000	45,000
			② 体育協会加盟団体数	団体	28	29	29	29	29
			③						
手段	<平成21年度の主な活動内容> 7大会に補助 ①第16回ミラージュカップサッカー大会 ②第17回3市2郡中学校バレーボール大会 ③2010環日本海in魚津ホープス・カデット卓球大会 ④第7回魚津カップジュニア駅伝競走大会 ⑤第5回魚津しんきろう杯小学生バレーボール交流大会 ⑥日本女子ソフトボールリーグ (7)2市1郡中学校野球大会 *平成22年度の変更点 スポーツ大会・教室、及びスポーツ大会開催助成を全て含めて魚津市体育協会に委託。	活動指標	① 補助対象大会数	大会	6	7	7	7	7
			② 大会参加者数	人	3,240	3,350	4,000	4,000	4,000
			③ 全国規模の大会の開催数 (北信越大会以上、国際大会含む)	大会	3	2	4	4	4
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) スポーツの全国大会などを魚津市内で開催することにより、市民に活力を与える	成果指標	① 週1回以上スポーツをする市民の割合	%	23.70	23.70	35.00	40.00	40.00
			②						
			③						
その結果	<施策の目指すすがた> 競技スポーツの感動が、まちに活力を与える	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 開始時期: 不明 全国、国際的な大会を市内で開催することにより、市の活性化に役立てる		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0	
			(2)地方債 (千円)	0	0	0	0		
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0		
			(4)一般財源 (千円)	460	590	1,000	1,000	1,000	
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	460	590	1,000	1,000	1,000	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	2	2		
ア. スポーツ施設が整備され、大規模な大会開催が可能			②事務事業の年間所要時間 (時間)	80	100	100	100		
イ. 体育協会を中心としたスポーツ団体の組織体制が整ってきた			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	336	421	421	421		
ウ. H17 継続大会の補助金額の見直し(減額)を実施			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	796	1,011	1,421	1,421		
エ. 補助額の基準(規模別) 国際大会15万円 北信越大会以上10万円 県内大会5万円			(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205		
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 特になし		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)						
		○ 把握している	未調査						
		● 把握していない							

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 全国、国際的な大会を市内で開催することは、スポーツ振興だけでなく経済活動、PRなど幅広く市の活性化に貢献する
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 大きな規模のスポーツ大会誘致は、市民に活力を与えること、スポーツ人口の拡大を図るための手段として有効であるが、市財政の都合もあり、当面は現状維持と思える。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 22年度よりスポーツ大会・教室実施事業と連携することで経費面の削減が可能。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 内容や実態等を調査し、不人気な大会の廃止、継続、新規追加等について幅広く検討
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 22年度より体育協会に全面委託することにより、大幅な人件費削減が可能。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 受益者負担は現状では適正である。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 他市については未調査のため、水準は不明。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	魚津市体育協会や競技団体と大会、教室の見直し等について協議が必要。 コストの方向性 削減
	中・長期的 (3～5年間)	種目の廃止、継続、新規追加等による事業の絞り込み 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

各競技団体が主管となり実施されており、補助基準に基づいて一定額の大会補助をしている。各大会がスムーズに実施されるよう支援していくが、継続開催における交付基準額の検討を要す。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32202103	
事務事業名	市長杯争奪高校野球大会事業	
予算書の事業名	10. 市長杯争奪高校野球大会事業	
事業期間	開始年度	昭和63年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
		5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input checked="" type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	08030300
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	スポーツ係	
記入者氏名	片山伸二	
電話番号	0765-23-1046	

政策体系上の位置付け	コード2	322021
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第2節 地域に根ざした文化とスポーツの振興	
施策名	2. 生涯スポーツ社会の推進	
区分	競技スポーツの推進	
基本事業名	イベントスポーツの推進	

予算科目	コード3	001100601
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	6. 保健体育費	
目	1. 保健体育総務費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画			
				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
◆事業概要 (どのような事業か) 市内3高等学校 (魚津、魚津工業、新川) の野球競技力の向上と交流 ア. 大会の企画 イ. 大会準備、運営									
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 市内高等学校の硬式野球チーム	対象指標	① チーム数	チーム	3	3	3	3	3
手段	<平成21年度の主な活動内容> ○第21回大会の開催 ア. 大会の企画 イ. 大会準備 ウ. 大会の運営委託業務 *平成22年度の変更点 22年度は予算書事業名の市民スポーツ奨励事業の補助金で体育協会に全面委託する。	活動指標	① 参加チーム数	チーム	3	3	3	3	3
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 競技力の向上	成果指標	① 夏の県大会の成績 (市内高等学校チームの最高成績)	ベスト	16	32	8	8	8
			② 秋の県大会の成績 (市内高等学校チームの最高成績)	ベスト	32	32	16	8	8
			③ 春の県大会の成績 (市内高等学校チームの最高成績)	ベスト	32	8	16	8	8
その結果	<施策の目指すがた> 競技スポーツの感動が、まちに活力を与える	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 桃山野球場の完成 (S62) を機に同球場での高校野球大会 (県予選) 開催が望まれるとともに、市内高校の全国大会出場を期待する機運が高まり、交流試合を通じた競技力の向上を図ることが望まれた。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)		0	0	0	0	0
			(2)地方債 (千円)		0	0	0	0	0
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)		0	0	0	0	0
			(4)一般財源 (千円)		117	118	100	100	100
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)		117	118	100	100	100
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) ア. 市内高校の全国大会出場の期待は大きい イ. 未だ同大会を開催してからの県大会優勝はない ウ. 審判技術が向上			①事務事業に携わる正規職員数 (人)		2	2	1	1	1
			②事務事業の年間所要時間 (時間)		60	60	10	10	10
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)		252	252	42	42	42
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)		369	370	142	142	142
			(参考) 人件費単価 (円/時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) ・市内高校から甲子園 (全国大会) に出場してほしいという要望が多数の市民から寄せられている。 ・桃山野球場で夏の県予選大会を開催してほしいという要望が市内の野球関係団体等から寄せられていたが、22年度より隔年開催が決定した。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)						
		○ 把握している	未調査ではあるが、高野連公認大会ではない同様の大会は他市では開催されていないと思われる。						
		● 把握していない							

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input checked="" type="radio"/> 直結度小	説明 ・高校野球の試合を継続開催する実績を積みことにより、 ①施設PR ②審判技術の向上 ③大会運営能力の向上 などが図られ、→ 高野連に対して公式試合開催のアピール度合いが高まる ・学校側の強化方針や考え方は必ずしも一致していない
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
なし	説明 成果向上の余地なし。 (容易に成果が出る事業ではなく、継続することで競技力の向上につなげたい)
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 魚津市体育協会に全面委託することで、体育協会裁量で削減可能。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 魚津市体育協会に全面委託することで人件費削減可能。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担なし	説明 市内高校野球部の交流と競技力向上を図ることが目的であることと、公式戦ではないので、大会にかかる経費の一部負担 (参加料など) を課して実施する事業ではない
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 市内高校野球部の交流と競技力向上を図ることが目的であることと、公式戦ではないので、大会にかかる経費の一部負担 (参加料など) を課して実施する事業ではない

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input checked="" type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 維持

★課長総括評価 (一次評価)

夏の甲子園大会の県予選に向けての市内3校による交流試合ということで定着しているが、今一度、各高校の意向や行政としてどのように関わるかも含め、事業のあり方の検討を要する。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32202101	
事務事業名	魚津しんきろうマラソン事業	
予算書の事業名	12. 魚津しんきろうマラソン事業	
事業期間	開始年度	昭和56年度
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	4. 負担金・補助金
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input checked="" type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	08030300
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	スポーツ係	
記入者氏名	片山伸二	
電話番号	0765-23-1046	

政策体系上の位置付け	コード2	322021
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第2節 地域に根ざした文化とスポーツの振興	
施策名	2. 生涯スポーツ社会の推進	
区分	競技スポーツの推進	
基本事業名	イベントスポーツの推進	

予算科目	コード3	001100601
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	6. 保健体育費	
目	1. 保健体育総務費	

◆事業概要 (どのような事業か)	単位	実績		計画				
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
魚津市を代表するスポーツイベントの継続開催及び充実発展させることへの支援 21年度で29回開催となり、エントリー数も4,000名超の市では最大のスポーツイベントとして定着している。市でも全国にPRできる格好の事業として補助金を投資している。 事業実施団体：魚津しんきろうマラソン実行委員会（体育協会、陸上競技協会、魚津市） ア. 大会の企画（実施要項の作成） イ. 募集 ウ. 大会準備、運営 エ. 広告料の依頼、徴収 オ. 井原マラソン選手派遣 カ. 大会及び魚津市のPR								
(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ア. 市民 イ. 全国のマラソン愛好者	対象指標	① 魚津市の人口 ② 全国のマラソン愛好者 ③	人 万人	46,036 -	45,562 -	45,000 -	45,000 -	45,000 -
<平成21年度の主な活動内容> しんきろうマラソン実行委員会に対する大会への補助 ア. 大会の企画（要項作成） イ. 参加募集 ウ. 大会準備、運営 エ. 広告料の依頼、徴収 オ. 井原マラソン選手派遣 カ. 大会及び魚津市のPR キ. 発着点変更の検討会議 ※平成22年度の変更点 平成22年度より発着点をありそドームに変更する。	活動指標	① 大会参加者数 ② ③	人	3,671	4,152	4,474	4,800	5,000
(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ア. 定期的にスポーツを行う市民の増加 イ. 市外の参加者の増加	成果指標	① 市外、県外の参加者数 ② 参加都道府県の数 ③	人 都道府県	2,288 26	2,838 30	3,096 36	3,300 40	3,500 42
<施策の目指すがた> ア. 市民の誰もが気軽にスポーツを楽しみ、健やかに生きがいを持って暮らす イ. スポーツを通じて子供たちの心身の健全な育成が図られている ウ. 競技スポーツの感動が、まちに活力を与える		↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか 「市民ひとり1スポーツ」の推進を目標としてスポーツ人口の増大を図るために、スポーツに親しみ、活力ある生活を送れるよう各種教室及び大会を実施。健康志向の高まりの中、ジョギング愛好者が急増し、各地で一般市民参加のマラソン大会が開催されるようになり、魚津市での開催が望まれ、魚津水族館の新築オープンと併せ昭和56年に開催された。また、陸上競技協会においては、会員数の停滞と成績不振の対策に苦慮しており、その一助となることを期待した。	財源内訳	(1)国・県支出金 (千円) (2)地方債 (千円) (3)その他(使用料・手数料等) (千円) (4)一般財源 (千円) A. 予算(決算)額(①～④の合計) (千円)	(千円)	0 0 0 2,500 2,500	0 0 0 2,602 2,602	0 0 1,000 1,500 2,500	0 0 0 3,000 3,000	0 0 0 3,000 3,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) ア. 健康に対する関心は以前にも増して高まっているが、それをスポーツのみに求めている イ. ジョギングブームは去り、ウォーキングなど心肺や身体に負担の少ない種目が人気 ウ. スポーツ実践者においても、記録向上を第一とは考えてはいない(単一種目を専門的に行うのではなく、広く浅く楽しむことを願う者が増えている) エ. 参加者数はピーク(H10 18回大会 約3350人)を過ぎ、減少の傾向にあったが、28回大会には3671人、29回大会には4152人と増加傾向となっている		①事務事業に携わる正規職員数 (人) ②事務事業の年間所要時間 (時間) B. 人件費 (②×人件費単価/千円) 事務事業に係る総費用 (A+B) (千円) (参考) 人件費単価 (円/時間)	(人) (時間) (千円) (千円) (円/時間)	2 400 1,682 4,182 4,205	2 400 1,682 4,284 4,205	2 400 1,682 4,182 4,205	2 400 1,682 4,682 4,205	2 400 1,682 4,682 4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) ・市民、参加者から魚津市の一大イベントとして定着している ・議会から魚津市のPRにもっと活用すべきである ・参加者から現在の発着点(水族館)では、荒天の場合に避難場所がない。ありそドームを発着点にした方がよい。	◆県内他市の実施状況	● 把握している ○ 把握していない						
		(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 現在ではマラソン愛好者が増加しており、県内のほとんどの市町でマラソン大会が実施されている。 近隣では、黒部水マラソン、滑川ほたるいかマラソン、入善扇状地マラソンなどがあり、各大会では開催地のPRなどを全国に発信し、ほとんどの大会ではエントリー数が増加している傾向にある。						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 スポーツ振興だけでなく、市のPR、交流人口の増加など各方面から、活性化に対して大きく貢献している。 ・優秀選手の発掘 (児童生徒の中長距離選手の競技向上など) ・市外、県外からの多くの参加がある ・市民の協力体制の充実 (市民ボランティア活動、沿道からの応援)
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 スポーツ実施率の向上について → 減少傾向に歯止めをかけ、上昇に転じる ・市民の大会参加に対する欲求を高める → 大会参加を目的として継続したトレーニングをする市民が増加
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 参加人数の増加に努めており、ここ数年は急激な参加者増となっており、近年中には補助金額の増額が必要と考えられる。 ・補助金の削減 (3000千円→2800千円 H15:2800千円→2500千円) ・ボランティア協力員の活用 (約300名) ・参加料、広告料を徴収
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 魚津市最大のスポーツ行事として定着しており、魚津市と体育協会 (大会事務局)、陸上競技協会が協力体制で行う行事であり、また、参加者も毎年増加のため人件費の削減余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 市補助、広告料で大会運営を賄っており、現行では適正化が図られている。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 他市の大会運営もほとんどが市補助、広告料で賄っており、本市の受益者負担の水準も平均的である。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない
11. 事務事業実施の緊急性
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低いが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
(2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	参加者の増加に伴い、補助金増額の検討が必要。 コストの方向性 増加
	中・長期的 (3～5年間)	実行委員会では、陸連公認コースであることの優位性を活かし、大会の充実、発展について検討 → 参加者数の更なる増加に努める 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

魚津市に定着した一大イベントで出場者も毎年増加傾向にあり、今後も支援を継続していきたい。	二次評価の要否
	必要

★経営戦略会議評価 (二次評価)

--

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32202104	
事務事業名	全日本大学女子野球選手権大会事業	
予算書の事業名	13. 全日本大学女子野球選手権大会事業	
事業期間	開始年度	昭和62年度
	終了年度	当年度
	当年度継続	業務分類
	4. 負担金・補助金	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input checked="" type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	08030300
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	スポーツ係	
記入者氏名	片山伸二	
電話番号	0765-23-1046	

政策体系上の位置付け	コード2	322021
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第2節 地域に根ざした文化とスポーツの振興	
施策名	2. 生涯スポーツ社会の推進	
区分	競技スポーツの推進	
基本事業名	イベントスポーツの推進	

予算科目	コード3	001100601
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	6. 保健体育費	
目	1. 保健体育総務費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
魚津市を代表するスポーツイベントの継続開催及び充実発展させることへ市補助金交付で支援と、実行委員会委員に市担当職員も就任し、相互協力で大会準備、運営に当たっている。 事業実施団体：全日本大学女子野球選手権大会魚津市実行委員会 ア. 大会の企画 (実施要項の作成) イ. 参加者募集 ウ. 大会準備、運営 エ. 広告料の依頼、徴収 オ. 女子野球ジャパンカップの派遣 カ. 大会及び魚津市のPR		単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度			
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ア. 市民 イ. 全国の大学の女子軟式野球チーム	① 市の人口	人	46,036	45,562	45,000	45,000	45,000		
		② 全国の大学の女子軟式野球チーム数	チーム	22	26	26	26	26		
		③								
手段	<平成21年度の主な活動内容> ア. 大会の企画 (実施要項の作成) イ. 参加募集 ウ. 大会準備、運営 エ. 広告料の依頼、徴収 オ. 女子野球ジャパンカップの派遣 カ. 大会及び魚津市のPR *平成22年度の変更点 変更無し	① 参加チーム数	チーム	22	25	23	25	25		
		② 参加者数	人	466	499	500	550	550		
		③								
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ア. スポーツを通じての交流の拡大 イ. 全国大会の実施による魚津市のイメージアップ	① 観戦者数	人	1,870	2,000	2,050	2,100	2,200		
		② 参加チームの都道府県数	都道府県	10	10	11	11	11		
		③								
その結果	<施策の目指すすがた> 競技スポーツの感動が、まちに活力を与える。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 全国大学女子軟式野球連盟設立 (S61) の記念大会開催をきっかけとして、翌S62年に第1回全国大学女子軟式野球大会 (H13 15回大会から全日本大学女子野球選手権大会に改名) を開催。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1) 国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2) 地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3) その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
				(4) 一般財源	(千円)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
ア. 市民の大会認知度は高まった イ. 技術レベルが向上し、観戦して面白い試合が多くなった ウ. 参加チーム数はピーク (H11 13回大会 30チーム参加) を過ぎ、少子化の影響もあり減少傾向である。 オ. 洗足学園魚津短期大学の閉校 (H14.3) により、H14 (16回大会) から魚津市を中心とした実行委員会が大会を運営 カ. H17 (19回大会) から事務局を体育協会が担当				②事務事業の年間所要時間	(時間)	240	240	240	240	240
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	1,009	1,009	1,009	1,009	1,009
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	3,009	3,009	3,009	3,009	3,009
				(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) ・実行委員会委員や市民から魚津市のPRにもっと活用すべきである。 ・実行委員会委員から参加チームの増加を検討していただきたい。 ・せっかくの全国大会であるから、もっと市民にアピールして来場者の増加を図っていただきたい。				◆県内他市の実施状況		(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 全国大学女子野球選手権大会は、女子野球の唯一の全国大会であり、他市では開催はされていない。				
				<input checked="" type="radio"/> 把握している	⇒					
				<input type="radio"/> 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 スポーツ振興だけでなく、市のPR、交流人口の増加など各方面から、活性化に対して大きく貢献していること、近年では開催会場の地域住民による地場産品のふるまいなどがあり、スポーツに理解を深める交流の場として定着している。 ・全国から毎年500名余りの選手等の参加がある ・女子大学軟式野球の唯一の全国大会である
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 参加チームの拡大 ・連盟組織の充実 → 女子大学軟式野球チーム登録数の増加 親職者の増加 ・技術力の向上 → 参加チーム数の増加、市民の関心度及び全国的な注目度の向上
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 現状においては適正な補助金額である
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 市補助、広告料で大会運営を賄っており、現行では適正化が図られている。 ・運営体制の拡充: 市 → 市と体育協会 ・学生委員会及びボランティア協力員の活用 (実施済みであり、人件費の削減の余地は無い。)

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担なし 適正化の余地なし	説明 ・大会参加料1チーム20000円の徴収 ・学生委員会による選手の大会運営の業務補助 ・市民ボランティアの協力
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 大会運営は市補助、広告料で賄っており、本市の受益者負担の水準も平均的である。現状において、大会参加料の1チーム20000円は適切である。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
(2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

実施予定時期	次年度 (平成23年度)	技術指導体制の確立 チーム、選手個人の競技力向上対策が必要であり、20年度に引き続き21年度も富山サンダーバース選手による技術指導を実施しており、今後も協力要請を継続していく。	コストと成果の方向性 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	・実行委員会が主体となり、市も協力して市民ボランティアの公募制と活用促進を図る。 ・連盟の充実、発展	成果の方向性 向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

魚津市で開催される唯一の全国規模のスポーツ大会である。また、20年以上の歴史を積み重ねており、今後も強力に支援していきたい。大会運営については、学生委員会も携わるようになってきているが、多くの市民ボランティアにも参加してもらえよう工夫する必要がある。また、20年度からインターネットによる試合ライブ配信、事前抽選を実施しており、利便性の向上を図っている。	二次評価の要否 不要
---	---------------